

介護ニーズ最前線

団塊の世代を知る

阪本 節郎

人生100年時代 未来ビジョン研究所 所長

第6回

エンタテインメント & ゲームが心をつかむ



さかもと・せつお ●1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事の後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルタービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書『50歳を超えたらもう年をとらない46の法則』（講談社）や新書『シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか？ 新しい大人消費が日本を動かす』（日経新聞出版社、韓国版、台湾版）他

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

リタイア後は
エンタテインメントとスポーツ

ンタテインメントやスポーツが並んでいます（[図表参照](#)）。

映画を変えた団塊世代

団塊世代が若者の頃は映画のトレンドの変わり目で、フランスのヌーベルバーグやその後のアメリカン・ニューシネマが生まれた時代でもあります。彼らが社会人や大学生になると麻雀が流行し、大学紛争もあり雀荘へ直行する学生もいました。サラリーマンになつてからはゴルフで、かつての接待ゴルフの主役は団塊世代でした。リタイアした60代がお金と時間をかけたいことの調査結果を見ても、3位以下は映画鑑賞などのエ

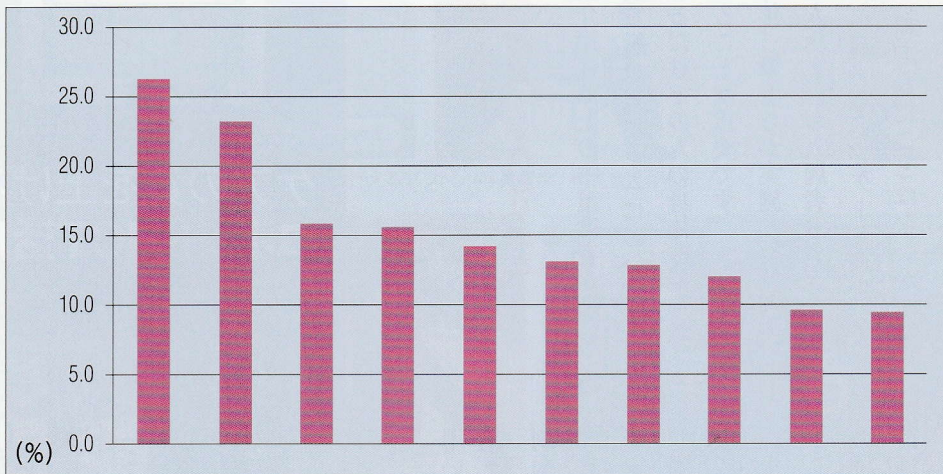
団塊世代以前の映画のなかで圧倒的に彼らに支持されたのは黒澤明監督です。「用心棒」や「椿三十郎」が名画座でよく上映されました。プレ団塊世代は日活青春映画であり、その主役が吉永小百合でした。「キューポラのある街」や「伊豆の踊子」などで、同世代の女性ファンが多く、その直後の団塊男性も熱狂的に支持しました。その団塊世代が中学生から高校生の頃

に大ヒットしたのが「ニッポン無責任時代」などのクレイジーキャッツの映画、加山雄三の「若大将シリーズ」であり、その少し前からの森繁久彌の「社長シリーズ・駅前シリーズ」、勝新太郎の「座頭市シリーズ」なども勉強そっちのけで友人と観に行きました。さらに、社会人や大学生になる頃には、高倉健の「網走番外地シリーズ」や藤純子の「緋牡丹博徒シリーズ」などの任侠映画、さらには菅原文太の「仁義なき戦いシリーズ」が若者にヒット、熱い応援上映もありました。

の雨傘」などが若者の心をとらえ、その後アメリカン・ニューシネマが登場し、悪者主人公、バッドエンドなど当時の常識を覆すストーリーは、今日の映画の基礎になったともいえます。ピーター・フォードの「イーजीライダー」やポール・ニューマンとロバート・レッドフォードの「明日に向かって撃て」、ウォーレン・ビーティの「俺たちに明日はない」などです。また、SF映画のスタンリー・キューブリック監督「2001年宇宙の旅」は何度もリバイバル上映されています。音楽関連でも、ビートルズの映像ヒストリーであるアンソロジーやローリングストーン

図表 今後お金や時間をかけたいと思っていること(60代、複数回答可)

(N=1236)



食へ歩き	ガーデニング	園芸／庭いじり	劇場での映画鑑賞 (外国映画)	美術館・博物館利用	美術鑑賞	スポーツクラブ／ フィットネスクラブ	劇場での映画鑑賞 (日本映画)	クラシックコンサート	ヘルスケア	クルマ・バイク
26.2	23.1	15.8	15.5	14.2	13.0	12.8	11.8	9.7	9.5	

出典：博報堂新しい大人文化研究所調査



網走番外地
Blu-ray 3,500円＋税 発売中
販売元：東映 発売元：東映ビデオ



男と女
DVD & Blu-ray 発売中
DVD 3,900円＋税 BD 4,800円＋税
発売元：ドマ、ハビネット 販売元：ハビネット
(C) 1966 Les Films 13

ズ、ボブ・ディランなどのライブも含めた映像素材などは繰り返し観たいものといえます。

このようにご紹介したのは、団塊世代が介護施設の利用者となったときに、これらがレクリエーションなどの一つとして有効に機能すると考えられるからです。入手の容易性は素材によって異なるかもしれませんが、このバラエティとボリュームがあれば、見飽きることはないといえます。

たとえば利用者同士、映画の話題で話が咲くことも大いにありそうですから、映画鑑賞会もいいでしょう。そこでは、同世代の元地元放送局のアナウンサーと元地元映画館館主の掛け合いで解説し、楽しく語り合うということも考えられます。利用者のなかにそういう人がいればなお良いでしょう。

映画・麻雀・ゲーム・ゴルフを 楽しむ介護施設!?

麻雀は大学の周辺に雀荘が沢山できて大盛況で、パチンコにもよく行きました。その後大流行したのがインベーダーゲームで、外回

りの途中のサラリーマンが喫茶店で盛んにやっていました。ゲーム第一世代も団塊世代です。さらに、サラリーマン＝ゴルフという図式をつくったのも団塊世代です。

現在、米国最大のリタイアメント・コミュニティであるサンシティでは中国系アメリカ人が日々麻雀卓を囲んでいます。日本でもすでにデイサービスのレクリエーションとして麻雀を取り入れているところもあります。ゲームに関する俊敏性を競うシューティングゲームはともかく、「みんなでゴルフ」「電車でGO」「太鼓の達人」などは団塊世代に人気です。さらに、グラウンド・ゴルフやパッティングなどは介護施設でも可能ではないでしょうか。

これだけのことがあれば、日々やることはありそうです。しばしば家族に施設に入れさせられたと不満をおつける利用者もいます。団塊の世代では厄介なことにならないとも限りませんが、これだけ揃っていればむしろ入りたいとなるかもしれません。ミニアミューズメント施設としての介護施設、というのもあり得ない話ではないのかもしれないのです。